

良田 大典 氏の学位審査結果の要旨

主査：野村 昌作

副査：上野 博夫、木梨 達雄

Follicular Pancreatitis(以下 FP)は、多数の反応性リンパ濾胞が膵実質において形成されることを特徴とする膵炎の亜型である。FP の臨床病理学的背景と網羅的遺伝子発現解析、および免疫組織学評価を実施し、自己免疫性膵炎との比較検討を行った。FP 全例において膵管周囲及び膵実質内に胚中心を伴うリンパ濾胞が多数形成されていた。リンパ濾胞周囲には軽度形質細胞が浸潤し、軽度の線維化を伴っていた。胚中心は bcl-2 陰性で、反応性濾胞と考えられた。IgG4/IgG 陽性形質細胞比は 30%未満であり、自己免疫性膵炎とは異なる像であった。一方、免疫関連 770 遺伝子発現解析の結果、20 遺伝子の発現カウントが、自己免疫性膵炎と比較して FP において有意に高く、注目すべきは、Th17 リンパ球に関連する CCR6 および IL23A の高発現であった。以上の結果から、FP の病態形成には Th17 リンパ球が関与している可能性が示唆された。過去の FP の報告では術前に膵癌や膵内分泌腫瘍などが疑われ、ほとんどの症例が外科切除されている。本研究結果をさらに進展させ、当該疾患の術前診断法が確立すれば、不必要な膵頭十二指腸切除を避けられる可能性があると考えられた。